

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195200019		
法人名	有限会社 ラポートケア		
事業所名	グループホーム 和 とりさと館		
所在地	北海道網走郡美幌町字鳥里2丁目5-12		
自己評価作成日	2017/1/23	評価結果市町村受理日	平成29年3月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL saku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosvoCd=0195200019-00&PrefCd

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成29年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地的に居間・食堂の前には公園があり子供達が遊ぶ様子が見られ入居者様にとっては癒しの一つとなっている。また日中も日差しが入り、玄関前の通路は近所の方々が通られ手を振ってくれたりし地域の方々に根付いてきている。秋には自治会の運動会があり参加したり出来ない方も居間から見て頂いたりしている。利用者さんの楽しみの一つになっている。自治会の役員の方皆さんも開設時から協力的であり自治会の総会も向こうから誘って頂いたり運営推進会議や避難訓練にも積極的に参加してくれる。職員や管理者が普段から近所の方への挨拶や世間話をし、入居者もたくさんの関わりを持って、一軒家として第二の我が家になってきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人として2カ所目となるグループホーム和とりさと館は美幌町とりさと地区の閑静な住宅街に立地しています。隣接して公園があり子供たちの遊ぶ姿が眺められて利用者の楽しみの一つとなっています。開設時から理念「自由に、ゆったり、ありのままに」和のある生活をおくっていただきます。一人ひとりの「そのひとらしさ」を尊重します。「第二の我が家」を目指して地域とふれあいます。利用者の暮らしをありのままにその人らしく支え、事業所が「第二の我が家」と成る様に職員間で共有し日々の介護に活かし実践に努めています。又、各ユニットで年間目標を定め、利用者一人ひとりの思いに寄り添った介護を目指しています。地域との交流も活発に行われ、お互いの行事への参加や協力等相互交流が行われており、災害時の協力関係も築かれています。地域包括支援センターの協力を得て認知症サポーター養成講座を開催する等地域貢献にも努めています。夏祭りを始めとして利用者が楽しめる行事を数多く企画し、臼を購入して毎年恒例の餅つきには、法人系列のグループホームの利用者や町内の住民も参加しています。事業所は平屋建て2ユニットとなっており、災害時の避難に配慮し建てられています。窓が大きく明るい事業所内には季節の飾りつけがされて、温湿度の調節もされ、利用者はのんびりと暮らしている様子が伺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場の理念を理解し利用者のケア・サービス提供実施している。	法人のもう一つのグループホームと共通の理念を、ホールや事務所に掲示しています。職員の名刺の裏や管理日誌に記載して共有に努め実践に活かし、利用者のその人らしさを支えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と職員が共に協力しながら地域の行事に参加したり当施設の各行事にも地域の方にお手伝いをお願いし交流を図っています。	町内会に加入し公園の草刈りや町内会の行事に参加しています。事業所の夏祭りでは昼間は町内会住民も出席し、夜には町内会主催の花火大会に利用者も参加したりと相互交流に努めています。保育園児が訪問したり、慰問のボランティアも受け入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談や認知症についての支援方法など地域の方々に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に開催し、ヒヤリハット、事故報告やホームの取り組みを報告している。職員も出席してもらい他職員にも内容については回覧している。家族参加にも工夫をしているがまだまだである。	町内会役員、行政職員、地域包括支援センター職員、民生委員等が参加し定期的に開催し、近況報告、災害について質疑応答が行われ運営に反映されています。家族の参加案内は全家族に送付し議事録も全家族に送付しています。職員も議事録を回覧し情報共有に努めています。	家族の参加が得られるように曜日や時間を工夫し参加をお願いしていますが中々参加が得られない状況となっています。更に工夫する中で運営推進会議を理解し参加して頂ける様に取り組む事を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情等については運営推進会議にて伝えている。相談事などがあつたら協力してもらっている。	行政職員が運営推進会議に参加しており、常日頃より連携を図り、質問や相談、情報交換に努めています。行政主催の研修会や講演会があつた時には参加する様に取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠については夜間帯のみにしているが、あたりまえにならないようにその意味をわかる事が大切と考えている。出来るだけホーム内に閉じこもらないようにしている。	年一回は内部研修で身体拘束に付いて学び、気付きを促しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいます。特に、慣れてくることで言葉が崩れ不適切な言葉になる事を懸念し、職員間で注意を払っています。離設の恐れのある利用者の安全確保の為に毎日の服装を記録しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場で虐待防止の勉強会を取り入れ利用者の虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人については表面上は理解しているがしっかりと理解はまだである。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関してはしっかり説明し、疑問な点はその都度説明して理解していただいている。変更の際には書面と口頭にて説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプラン変更時など要望や意見ももらっている。利用者さんについては普段の会話にて話を聞いている。受診の状況や身体に変化がある時は電話にて連絡している。	月に一度、利用者の写真を載せた事業所便りを家族に送付しています。家族の面会時には状況を伝え、なかなか面会に来られない家族には電話で状況をお知らせしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等にて意見や提案を聞き反映するように努めている。	代表者、管理者はユニット会議の中で職員の意見や提案を把握し運営や介護に反映させています。本年は外部コンサルタントにより個人面談を行い自己評価のアドバイスをっており資質向上に取り組んでいます。	内部研修には年2回、取り組んでいますが、外部研修は少なく、研修計画に基づいた取り組みを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休や有給休暇は出来るだけ調整し対応している。正社員も今後は増やしていきたいと考えている。賃金については介護報酬の事もあり難しい状況にあるが出来るだけのことはしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会は、各研修を全員が順番に受けれるように作っている。また、職員自身の向上のために資格などの挑戦を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で交流する機会は作っている。町内のGHの仲間と勉強会を開き質の向上に努めている。また、同業者からなる団体等の活動に積極的に参加し横のつながりを大事にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に安心感を持って頂けるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの本人の状況などを家族と話しをして傾聴して関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族などの話し合いにより支援の見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所で一緒に材料を切ったり掃除を行なっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームで行事を行なう時は家族への参加を呼びかけている。年賀状を書き送っている。本人より電話を掛けたいと希望の時は電話でお話しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人は親戚、友人の方が面会に来ていて、馴染みの場所はなかなか行けてないのが現状である。	友人が訪ねて来た時には居室でゆっくり話ができる様に配慮しています。家族の協力を得てカレンダーに日記を付ける習慣を継続する等、利用者のこれまでの関わりや習慣を大切にしたい支援を心掛けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の利用者同士の関係を支えあえるように声掛けして支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も何か困った事などあれば相談に乗ることを伝えたりし支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の日々の生活の中で会話を持ち、希望や意向の把握に努めている。困難な場合は傾聴し本人の立場になって支援している。	管理者、職員は利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向等を受け止めその人に合わせた対応を心掛けています。あまり意向を表明しない利用者には居室で話をする等工夫し、意向や希望の把握に努め職員間で検討し情報を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのフェイスシートを確認してこれまでのサービス利用経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のリズムに合わせて生活している。本人の出来ることなど行なっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議のほか特変事項をケアマネジャーと連絡を密にしている。	家族の面会時に希望や意向を聞き、全職員によるモニタリング、カンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成し、定期的に見直しを図っています。毎日の介護記録は『生活(暮らし)アセスメントシート』に記入し、介護計画の実施状況が把握出来る様になっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態はアセスメントシートに記録し気づきがあった時は連絡帳、管理日誌に記入し情報を共有し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画を元に、その時の状況によって柔軟な対応を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の時に社会福祉協議会に連絡しボランティアをお願いしたり、ボランティア団体から連絡があり来てくれたりする。個人的に有償ボランティアを利用している人もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の定期の受診、体調不良時の急な場合の受診の対応支援している。	医療機関への受診は利用者のかかりつけ医へ事業所に対応しています。訪問診療を受けている利用者がいますが、往診はされていません。2週間ごとに訪問看護師により健康管理が行われ安心感に繋がっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月二回の訪問看護で日頃の利用者の様子など伝え相談してます。看護師のアドバイスで受診に行ったりもしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームのアセスメントを提供し、退院時には病院側からのアセスメントを頂きお互いの情報交換をしている。また、病院に行き状態を把握し状況によっては担当医師と話が出るようにお願いし家族さんを交えて話をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	生前意思を本人、家族から聞き今の段階での同意書を頂いている。かかりつけ医にもよるが重度化、終末期においての往診も考えながら支援に取り組んでる。	入居時に指針を説明し、理解を得ています。必要時には改めて同意を貰い、医師を交えて話し合い、事業者で取り組める範囲を説明しています。医療機関の体制が整いつつあり、看取りケアに向けて体制構築に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが緊急時の対応マニュアルを普段から見やすい場所に貼りすぐに対応出来るように心掛けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施している。地域の方々にも協力をして頂き実施している。水害想定での避難訓練も実施し移動の想定時間も把握できた。	年2回の火災避難訓練を夜間、昼間想定で地域住民も参加し実施しています。加えて11月には水害想定での避難訓練を実施しマニュアルの整備をして運営推進会議で報告しています。停電時対策としてポータブルストーブ2台、備蓄食料3日分を用意しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時や入浴時等のプライバシーを損ねないように配慮、声掛けに気をつけている。	利用者の尊厳を尊重し、プライバシーに関わる言葉や対応に注意を払っています。入浴や排泄介助時に同性介助を希望する利用者には希望に沿うように努め、様々な場面で自己決定を大切にした支援に取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中や言葉のやり取りの中で自己決定できる働きかけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを優先にして聞き取り支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は本人と一緒にその日の気候などを考えながら本人の要望もくみ取り身だしなみやおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に調理で食材を切ったり盛り付けして頂いている。洗いや食器拭き、片付けをしている。時々、外食も取り入れている。	その日の食材を見て、利用者の好みを取り入れた献立を職員が作成し、準備や後かたづけを職員と一緒にしています。ホテルに出掛け、外食を楽しんでいます。管理者がカロリー計算に取り組みバランスやカロリー、水分摂取について学び検討をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の調整をしたり形態の工夫をしている。水分量を取りやすいように時間や飲みやすいもの、好みなど工夫して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアをしている。寝る前は義歯を外してもらい洗浄している。困難な方には工夫をしながら対応しているが難しい方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の時間の把握をして声掛けトイレ誘導を促すように支援している。難しい利用者さんもある。	利用者全員の排泄記録を作成し、タイミングを把握し、さり気ない声掛けで誘導支援に取り組んでいます。トイレを使用している時はドアを閉める様に気を付ける等プライバシーに配慮した対応と成っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者の排便状況をできる限り理解し便秘が続いている時は本人の状態に合わせて体を動かす事、水分の提供などを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	女性の利用者の中で入浴介助は女性職員を希望されている方は、そのように対応して個々に沿った支援をしている。	週2回は入浴出来る様に支援しています。浴槽は各ユニットでスライド式の浴槽と、大きめの普通の浴槽と違うタイプの浴槽が設置され、利用者の状況で使い分けをしています。肌の乾燥対策で入浴剤の使用を医師から進められ検討しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせて日中はソファで休息したり入眠状況に応じ安眠出来るように支援している。昼夜逆転にならないようにはしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬は個人のファイルに綴り、受診時の状態、変化は受診状況ファイルを個々に作成し確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、タオル畳みえおしています。ドライブ、外食などで気分転換を支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族同伴の外出はいつでも自由に行けるように支援している。また、ドライブや外食やイベントなどに行くように支援している。	事業所の前に公園があり天候が良くなると散歩に出掛けています。その他ドライブで観光地に出掛け楽しんでます。また、近隣市で合唱祭があり利用者は他のグループホームの利用者と共に合唱団に参加しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持についてはご家族さんと相談しながら支援している。個人の買物については所持している方は自分で支払うことができるようにしている。小遣い帳を記入し残金の確認もしている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人からの希望時に支援している。年賀状を用意し書けない方の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのボードに季節を感じさせるように(秋は落ち葉など)展示に心がけ廊下には行事、日常の写真の掲示をして見いただいている。	リビングには季節を感じさせる飾りつけがなされたり、行事の写真が飾られて楽しい雰囲気と成っています。また、室内のカーテンを夏、冬の季節毎に変えて雰囲気を変えると共に遮光をして室内環境を調整し、居心地よく過ごせるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段は居間、食堂にて過ごしているが、廊下の奥に椅子を置いておりそこで気の合った同士話をしたりする場所を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族と相談し使い慣れた物や好みの物を持ってきていただいている。本人の身体状況などにも合わせて、物の配置も考慮している。	居室にはクローゼットが設置されている他、利用者の使い慣れた寝具や筆筒等の家具が配置されています。家族の写真や絵を飾り利用者が住みやすく居心地が良い様に作られています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は手摺、バリアフリーになっているが普通の住宅と変わらず自分でできることはできるようにと特別な配慮はしないで自立した生活ができるように支援している。		